

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 愛知県岡崎市立梅園小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒444-0071

愛知県岡崎市稲熊町4丁目68番地1

E-mail [umezono@st.oklab.ed.jp](mailto:umezono@st.oklab.ed.jp)

Website <http://cms.oklab.ed.jp/el/umezono/>

幼児児童生徒数 男子 402名 女子 367名 合計 769名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「自ら考え、生き生きと学び合う子どもの育成」を学校理念として、ESDを「私たちとその子孫たちが、この地球で生きていくことを困難にするような問題をについて考え、立ち向かい、解決するための学び」と捉え、ESDの実践を通して人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと、また、他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むことを目標とした。

具体的には、教科指導におけるESDの実践、地域社会の創造、人権教育を柱に、①各教科の研究授業、②梅園プライドフェスティバルの開催、③梅っ子なかよし集会の開催を行った。

### ① 各教科の研究授業

6月29日(木)に、5年4組で家庭科の指導員訪問の授業研究を実施した。単元名は「心を込めて作るよ ペアの子へのネームプレート」である。5年4組のペア学級となっている2年4組の子どもたちとの交流を深めるために、「仲よし交流会」を開くことになり、そこで子どもたちは、2年生の子

に何かプレゼントをあげられないかということから、裁縫の技能を生かした「ネームプレート」を作ってプレゼントしたいと言い出した。総合的な学習との横断的な学び、生活の中で生まれた問いからつながるものである。子どもたちは、ひとり調べでボタン付けの方法を調べ、教師はそれを座席表に記載して配付し本時を展開した。

本時では、教師自作（発泡スチロール・ウレタン・針金等で製作）の巨大なボタン・糸・針を使って、子どもたちがボタン付けの方法について実演を交えながら発表した。自作の教具により、子どもたちの興味は高まり、意見のかかわり合いを通じて、子どもたちは、ボタン付けのポイントについて理解できた。本時の後半の時間は、その学びを生かして、実際にボタンを付ける作業に取り組んだ。

後日、子どもたちは2年4組の子どもたちに、製作したネームプレートを手渡した。うれしそうに受け取る2年生の子どもたち、そしてボタン付けに自信を持って工夫を凝らして作り上げた5年生も満足げな表情を見せた。

## ② 梅園プライドフェスティバルの開催

昨年度、実施した「梅園百歳フェスティバル（梅園小学校がこの地に移転して100年を祝う会）」をベースに、本年度も「梅園プライド（梅園を敬い梅園を愛し 梅園を信じる）」の精神を受け継ぎ、梅園小や梅園学区をよりよくしたいという活動に取り組んできた。その学びの土台となった生活科・総合的な学習の時間の発表の場として「梅園プライドフェスティバル」を実施した。

会場となった運動場と体育館では、各学年の児童が中心となって、ブースを立ち上げた。各ブースでは、学区の昔話を劇にした発表、使用済タイヤを使った体力づくり、梅を使ったいろいろな料理の試食など、全校のみんなが楽しめるよう工夫を凝らした演出が見られ、どこのブースも大変な盛り上がりを見せた。

## ③ 梅っ子なかよし集会

### (1) いじめを許さない学校のルール

一昨年度の5、6年生の学級代表が考えた「いじめを許さない学校のルール」を受け継ぎ、右のカードを全校児童に配付し、常にランドセルから取り出せるようにした。

### (2) クラス、学年で目標やルール作り

「いじめを許さない学校のルール」を受けて、そのルール一つ一つについて各クラスで自分たちの実態を振り返り、話し合いをした。そして、各クラスの目標やルールを決め、人権集会の中で発表する場を設けた。

### (3) 6月の人権集会

司会、運営は5、6年生の前期学級代表が行った。まず、生活アンケートの集計結果を、パワーポイントを使ってグラフを示しながら全校児童に伝えた。全体的な傾向としては、子どもたちの生活意識の向上が見られたが、「学校は楽しくない」「嫌なことをされることがある」などと回答した子どももいた。このような現状を学校全体で共有することで、学校をよりよくしていくとする気持ちを高めることができた。

次に、人権啓発ビデオの視聴、学級代表からの劇、「いじめを許さない学校のルール」の確認、クラス目標の発表を行った。人権啓発ビデオの視聴では、いじめを受けた子どもの作文をもとに作成されたビデオを視聴した。視聴後に感想を伝え合うことで、「いじめは人の心を傷つけてしまう」という意識を高めることができた。学級代表からの劇では、アンケートから浮かび上がった実態を踏まえ、「仲間外れ」をテーマにした劇を行った。この劇を観劇することで、遊びのルールが守れない子を仲間外れにしてしまった場面や、些細なもめ事から集団で一人の子を避けてしまう場面などといった具体的な場面について想起することができ、子ども一人一人がそうならないための改善策を考えることができた。また、劇の感想を伝え合うことで、全校でいじめをなくそうとする気持ちが高められていった。クラス目標の発表では、事前に各クラスで話し合っただけで決めた目標を発表することで、それぞれのクラスがどのように取り組んでいくか、具体的な活動内容を確認することができた。



① 家庭科の授業の様子



②梅みそ料理を作る6年生



②PTA 協力の餅つき



②ものしりクイズ王決定戦



③学級代表による「いじめ」をテーマにした劇



④活動の振り返りと目標の発表

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし
------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

主に総合的な学習の時間の活動内容として、活動の内容を学校経営案に位置付けている。位置付けられたものをもとに、担当者を中心に、各学年の職員と話し合い、活動の内容を決定している。次年度に新たな活動を起案する際には、昨年度の反省や改善策を明記した上で提案することで、指導方法の工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

「行事総学教育推進部」という部会を立ち上げ、各学年の活動内容を提案したり、まとめたりしている。職員会で議論することで、組織的かつ継続的に活動に取り組めるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価はできていない。今後、改善をはかりたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動の成果は、学校のホームページで発信したり、文書で保護者に発信したりしている。ユネスコスクールと連携して、成果を伝え合ったり、加盟していない学校に発信したりできていないので、今後改善をはかりたい。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

とくに連携していない。今後改善をはかりたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

とくに交流できていない。今後改善をはかりたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

梅っ子なかよし集会では、人権啓発ビデオを視聴した後に感想を聴き合う場を設定することで、全校で仲良く生活していこうとする気持ちを高めることができた。また、学級代表の発案により、劇やアンケート調査に取り組むことで、子どもの身近な問題を取り上げることができ、子どもたちが主体となって問題に向き合うことができた。

活動を通して、人間性が育ち、社会や他者との「つながり」を尊重できる個人を育むことができた。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

昨年度に引き続き、梅園プライドフェスティバルや梅っ子なかよし集会を開催する予定。活動内容の詳細については、今後検討していく。